

## 安全データシート

改訂日:2022年8月17日

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称  
推奨用途  
会社名  
住所  
電話番号

ケロシン  
試験研究用  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
BD0119

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性  
健康に対する有害性

引火性液体:区分3  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:区分2  
発がん性:区分2  
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分3(気道刺激性、麻酔作用)  
誤えん有害性:区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
引火性液体及び蒸気  
皮膚刺激  
発がんのおそれの疑い  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

**【安全対策】**  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。  
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。  
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
**【応急措置】**  
火災の場合には適切な消火方法をとること。  
飲み込んだ場合:無理して吐かせないこと。  
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。  
衣類にかかった場合:直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。  
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。  
ばく露又はその懸念がある場合:医師の診断、手当てを受けること。  
飲み込んだ場合:直ちに医師の診断、手当てを受けること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。  
**【保管】**  
容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。  
**【廃棄】**  
内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名  
別名  
化学式  
化学物質を特定できる一般的な番号  
含有量  
官報公示整理番号(化審法、安衛法)  
その他

化学物質  
ケロシン  
灯油  
 $C_nH_m$   
CAS RN: 8008-20-6  
100%  
(9)-1702 / 公表  
HSコード: 2710.19

## 4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。  
皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗うこと。  
医師の手当、診断を受けること。

眼に入った場合	汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。 水で数分間、注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。吐かせない。 医師の手当、診断を受けること。
予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 応急処置をするものの保護	皮膚・気道の刺激、皮膚の乾燥、発赤、錯乱、めまい、頭痛、腹痛、下痢、吐き気、嘔吐。遅発性症状：化学性肺炎。 救助者は、状況に応じて適切な保護具（有機溶剤用の防毒マスク等）を着用する。
医師に対する特別な注意事項	安静に保ち、医学的な経過観察が不可欠である。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	棒状注水 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	引火性液体及び蒸気 蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。 引火点が極めて低い。散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避け漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策（局所排気、全体換気等）	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込んではいけないこと。 蒸気、ミスト、スプレーを吸入しないこと。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 容器を密閉して換気の良い涼しい所で保管すること。 酸化剤から離して保管する。

容器包装材料	容器は直射日光や火気を避けること。 施錠して貯蔵すること。 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	未設定
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	
ACGIH	TLV-TWA 200mg/m <sup>3</sup> (皮)(as total hydrocarbon vapor)
設備対策	防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気を設ける。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク、送気マスク、自給式空気呼吸器等)を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	無色～淡黄色
臭い	特異臭
融点/凝固点	-46°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	150～320°C
燃焼性	非該当
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	0.7-5vol%
引火点	35°C以上
自然発火温度	229°C
分解温度	該当情報なし
pH	該当情報なし
動粘性率(粘度)	該当情報なし
溶解度	水に不溶。他の石油系溶剤に混和。
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし
蒸気圧	64Pa(0.480mmHg)(20°C)
密度及び/又は相対密度	0.8-0.85(水=1)
相対ガス密度	4.5 g/cm <sup>3</sup> (空気=1)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	常温、常圧の下では安定である。
危険有害反応可能性	酸化剤、硫酸と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。 蒸気は空気と混合し、引火爆発の危険がある。
避けるべき条件	高温、火花、裸火、混触危険物質との接触を避ける。
混触危険物質	酸化剤、硫酸
危険有害な分解生成物	一酸化炭素
11. 有害性情報	
急性毒性	経口: IARC 45(1989)のjet propulsion fuel(JP-5)のラットLD <sub>50</sub> 値が >48000mg/kgとの記述、およびIUCALID(2000)のstraight run keroseneをラットに経口投与したGLP試験において5000mg/kgで死亡が認められなかったとの記述から、区分外とした。 経皮: IUCALID(2000)のstraight run keroseneをウサギに経皮投与したGLP試験において2000mg/kgで死亡が認められなかったとの記述から、区分外とした。 吸入: IUCALID(2000)のstraight run keroseneをラットに吸入暴露したGLP試験に(ミスト)において5.28mg/Lで死亡が認められなかったとの記述から、区分外とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	EHC(20, 1982)、ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)およびIARC(45, 1989)のヒトで皮膚への接触により刺激性が認められたとの記述から、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	PATTY(4th, 1994)の眼を刺激しないと記述、ならびにIUCALID(2000)のウサギを用いたDraize test(GLP試験)で刺激性が認められなかったとの記述から、区分外とした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器: 該当情報なし 皮膚: IUCALID(2000)のモルモットを用いたBuehler test(GLP試験)で感受性が認められなかったとの記述はあるが、Priority1において明確に感受性を否定するデータがないことから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	体細胞を用いるin vivo変異原性試験であるラット骨髄細胞を用いる染色体異常試験でjet fuel A1について陽性の結果がある(IARC 45, 1989)が、keroseneについては陰性の結果(ACGIH 7th, 2001、IARC 45, 1989、IUCALID, 2000)があり、マウス骨髄を用いた小核試験でもdiesel No.1について陰性の結果(ACGIH 7th, 2001)、さらに、げっ歯類を用いる優性致死試験でもkeroseneおよびjet fuelについて陰性の結果(ACGIH 7th, 2001)があることから、区分外とした。
発がん性	IARC 45(1989)でJet fuel(kerosene, 8008-20-6)およびDistillate(light) fuel oilsがグループ3に分類されているが、ACGIH(2001)ではkerosene/Jet fuelsがA3に分類されていることから、最近の評価であるACGIHの分類に基づき、区分2とした。

生殖毒性	ACGIH(7th, 2001)、IARC(45, 1989)およびNTP(TR 310, 1986)の妊娠ラットへの投与試験で生殖毒性が認められなかったとの記述はあるが、親動物への影響についての記述がないため、投与量(蒸気圧から計算できる飽和濃度未満)が適切であるか否かの判断ができないことから、分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)およびIARC 45(1989)のヒト暴露例で中枢神経抑制やめまいなどが認められたとの記述、ならびにACGIH(7th, 2001)のマウスを用いた吸入暴露試験で気道刺激性が認められたとの記述から、麻酔作用および気道刺激性を示すと考え、区分3とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	該当情報なし
誤えん有害性	ACGIH(7th, 2001)およびEHC 20(1982)にヒトで誤嚥により化学性肺炎をおこすとの記述があることから、区分1とした。
<b>12. 環境影響情報</b>	
生態毒性	短期: 該当情報なし (急性) 長期: 該当情報なし (慢性)
残留性・分解性	該当情報なし
生体蓄積性	該当情報なし
土壌中の移動性	該当情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
<b>14. 輸送上の注意</b>	
国連番号	1223
品名(国連輸送名)	KEROSENE
国連分類	3
容器等級	III
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	128
<b>15. 適用法令</b>	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	危険物第4類第2石油類非水溶性液体
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[ケロシン] 危険性又は有害性を調査すべき物[ケロシン] 危険物(引火性の物)
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
<b>16. その他の情報</b>	
参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ(化学工業日報社) 化学品安全管理データブック(化学工業日報社)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。